

物的環境に関連するインシデント・アクシデント事例

事例番号477

発生場所	トイレ	精神・意識障害の有無		リスク
発生場所（その他）		なし		
関連したもの	ドア 手すり	発生内容の分類	転倒	C. 不適切な環境設定・維持管理不足によるリスク

発生内容

個室（特別室）トイレのドアによる転倒。

概要

個室（特別室）でトイレ後ベットに戻るため、トイレのドアノブをつかんで開けた際、ふらつき転倒。右上腕外側に表皮剥離あり。

要因

個室トイレは、空間確保の為、折れ戸になっており、当該折れ戸は押しても引いても可動できるものとして、力の弱い人でも使用できるように開発されたものである。手すりのようにつかまってしまうと転倒のリスクはある。

対策

- ・ドアが容易に開閉するため、ドアの取っ手を支えにしない様に説明、注意喚起する。（開閉注意！手すりではありません）をドア取っ手付近に貼布。リハビリ科と相談し、取っ手に赤字で注意の表示をする。
- ・ネジの緩みがないか、定期的な点検をする⇒医療安全ラウンドなど。
- ・必要時介助バーの設置。⇒他病棟からも入口付近の固定手すりの設置の要望あり。施設課と相談、調査し、必要部署（脳外科・整形外科・総合診療科）の病棟より設置できるように検討中。

参照

